NEWS LETTER
EMECS
International EMECS Center
No.49
ISSN 0919-7060 March 31, 2026

〈改訂版〉

みんなの里海づくり支援事業を開始しました

国際エメックスセンターでは、令和６年５月に環境省水・大気環境局との間で「里海づくりの推進に関する協定書」を締結し、沿岸域の生物多様性等の保全と地域資源の利活用の好循環を目指した里海づくりの取組を協働して推進しております。

令和７年度から当センター自主事業として「みんなの里海づくり支援事業」を開始することになりました。本事業は全国の沿岸域で取り組まれている里海づくりの担い手である多くの団体に広く活動資金を提供するとともに、必要に応じて環境省からの受託事業で得られた経験や科学技術的知見等を提供することにより、継続的な活動を支援すること及び沿岸域で取り組まれている様々な里海づくり活動に資する研究、技術開発を担う研究者を支援し、里海づくり活動をより一層推進することを目的にしています。

本事業の一環として、里海づくり活動を行っている団体を対象に１件あたり 50 万円を上限として助成する活動支援、里海づくりに資する研究を行っている研究者を対象に１件あたり 100 万円を上限に助成する研究支援の制度を設け、令和７年５月から６月にかけて募集し、活動支援は 17 団体、研究支援は８名の研究者が助成対象者として選ばれました。

なお、本事業について一層の推進を図るため寄附金を募集し、５つの企業様からご理解とご賛同をいただき、事業へのご支援をいただきました。

みんなの里海づくり支援事業

活動支援助成金交付決定団体一覧（17 団体）（敬称略）

No.	活動場所	実　施　団　体	代　表　者	事　　業　　名
1	北海道石狩市	石狩湾漁業協同組合	代表理事組合長　丹野　雅彦	石狩湾新港における里海づくりに向けたコンブ養殖試験
2	北海道苫前郡羽幌町	北るもい漁協焼尻支所 浅海増殖部会	高松　亮輔	焼尻 UNI-MOBA サステナブルプロジェクト
3	千葉県館山市	NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団	竹内　聖一	南房総・館山～持続可能な里海・里山づくり活動の為のコンテンツ作りと普及啓発
4	神戸市兵庫区	一般社団法人 ABAREWORK	佐々木秀浩	AmaDrop プロジェクト（陸上で大苗化したアマモ苗を船上から投下し海底で自然活着を狙う定植方法）
5	神戸市須磨区	株式会社 BLUABLE	魚谷　貴秀	都市で海とつながる藻場プロジェクト@神戸市須磨
6	兵庫県豊岡市	但馬漁業協同組合竹野支所 青壮年部	長谷川　充	藻場から始まる持続可能な地域づくり
7	岡山県倉敷市	公益財団法人水島地域環境再生財団	理事長　石田　正也	水島灘における里海づくりに向けた、高梁川流域について学ぶ活動
8	岡山県笠岡市	KASAOKA BLUE RAISE	松田　宏矢	笠岡のアマモ場の調査
9	広島県東広島市	流域圏環境再生センター	山本　民次	干潟や藻場の機能に関する環境学習
10	広島県江田島市	江田島未来の海づくり協議会	濱田　忠彦	江田島市周辺における産官学連携による牡蠣殻を活用した新たな藻場増殖活動
11	福岡県宗像市	宗像市	伊豆美沙子	「宗像ウニプロジェクト」～駆除ウニを活用した藻場再生促進・普及啓発プロジェクト～
12	佐賀県唐津市	特定非営利活動法人 玄海灘を守り育てる会	浪口　志郎	未来に繋げ、海洋環境学習と体験ツアー実証による「ヒト・モノ・資金」の好循環連携体制づくり
13	長崎県長崎市	やったろう de 高島	会長　福村　学	継続と連携で育む「里海づくり」創造事業
14	長崎県壱岐市	有限会社和 コーポレーション	坂本　和久	「壱岐の島」海洋プラスチックごみ・クリーン作戦・ごみアート展と エコツーリズム大会
15	宮崎県日向市	平岩採介藻グループ	高橋　和範	日向・平岩 クロメの海の森
16	鹿児島県鹿児島市	海を守り隊	松田　康司	美しいサンゴ群集との共生を目指して－大当海中クリーンプロジェクト
17	鹿児島県南さつま市	南さつま市藻場再生協議会	会長　上村　秀人	海のゆりかご（アマモ場）再生事業

研究支援助成金交付研究者一覧（８研究者）（敬称略）

No.	地方区分	活動場所	研究者名	所　属　先	研　究　課　題　名
1	東北	宮城県仙台市松島湾	齊藤　愛実	一般財団法人山形県理化学分析センター	松島湾における藻場分布データを用いたアマモ場生育ポテンシャルの推定（2012 年～ 2024 年）
2	関東	静岡県駿河湾	荒川　久幸	東京海洋大学 学術研究院	駿河湾の荒廃した資源を回復するための里海づくり
3	中部	石川県七尾湾	吉田　尚郁	公益財団法人環日本海環境協力センター	環境 DNA を用いた七尾湾西湾の藻場生態系調査
4	中部	三重県鳥羽市	山本　康介	国立大学法人三重大学	鳥羽市におけるアマモ場の再生に必要な諸要素の検討
5	中国	広島県尾道市	下ヶ橋雅樹	叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部	アサリ資源回復による里海づくりを通じた大学教育手法に関する研究
6	中国	広島県尾道市	山本　裕規	特定非営利活動法人瀬戸内さとうみ楽会	AI を活用した地域の里海の歴史・文化の継承と里海物語づくりに関する研究
7	中国	広島県尾道市	山岸　幸正	福山大学生命工学部海洋生物科学科	広島県東部海域におけるアマモ地域集団の遺伝的解析
8	九州	長崎県対馬市	李　善愛	宮崎公立大学人文学部国際文化学科	長崎県対馬市琴村漁民の里海再生の試み：ヒジキ漁場を中心に

目　次

●みんなの里海づくり支援事業を開始しました…… 1
●令和の里海づくりポスターデザインコンペティション優秀賞（環境大臣賞）が決定しました…… 2
●令和７年度 若手研究者活動支援制度 助成対象研究者決定…… 3
●里海国際フォーラム　開催報告…… 4-5
●東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）年次会合　参加報告 … 6
●アジア水環境パートナーシップ（WEPA）　事業報告 …… 6
●令和７年度高校生海洋環境保全研究セミナー　開催報告…… 7
●第 20 回日仏海洋学シンポジウム　参加報告 …… 8
●事務局からのお知らせ…… 8

令和の里海づくりポスターデザインコンペティション優秀賞（環境大臣賞）が決定しました

国際エメックスセンターは、全国の大学・短期大学など高等教育機関に在籍する学生を対象に、「令和の里海づくりポスターデザインコンペティション」を実施しました。

本コンペティションは、環境省が令和７年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業で選定した８つの実施団体が各地域で取り組む里海づくり事業を通してめざす「令和の里海づくり」をテーマにしたポスターデザインを募集したものです。

令和７年11月１日(土)から11月23日(日)までポスターデザインを募集し、12月９日（火）に開催された「令和の里海づくりポスターデザイン審査委員会」において、各テーマにつき１点（合計８点）が優秀賞（環境大臣賞）に選ばれました。

令和８年１月30日（金）に難波御堂筋ホール（大阪市中央区）で開催された「令和７年度里海づくりシンポジウム」（共催：環境省、環境研究総合推進費Ｓ－23プロジェクト、国立環境研究所）において表彰式が行った他、会場内でポスターを掲示しました。

里海づくりポスターデザインコンペティション

テーマ	実施団体（活動地域）	事　業　名
1	NPO 法人環境生態工学研究所 （宮城県松島町）	松島里海バスケット
2	（一社）東松島みらいとし機構 （宮城県東松島市）	東松島 BLUE LAND プロジェクト
3	和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会 （石川県七尾市）	和倉温泉からめぐる七尾湾里海再生プロジェクト
4	国立大学法人 三重大学 （三重県鳥羽市）	日本の里海　～三重県鳥羽市における地域資源としての自然環境・共生文化・生物多様性利活用モデル実証事業 ～
5	貝塚里海づくり未来協議会 （大阪府貝塚市）	二色の浜海岸地域における持続的な生態系の保全と里海ネットワーク構築事業
6	尾道東部漁業協同組合 （広島県尾道市）	松永湾の再生・利活用に向けた新たな里海創生プロジェクト
7	（一社）ふくおか FUN （福岡県福岡市）	博多湾から始める沿岸と流域が繋ぐ人の営みと自然調和
8	肥後銀行 、（公財）肥後の水とみどりの愛護基金　（熊本県芦北町、天草市）	八代海等沿岸域における産官学民金連携によるアマモ場再生及び利活用による里海づくり事業　～未来に続く里海を目指して～

優秀賞（環境大臣賞）受賞作品及び受賞者（敬称略）



テーマ１
森田　倖妃（東海大学）



テーマ２
山宮　彩愛（東海大学）



テーマ３
高橋　彩希（東海大学）



テーマ４
堀江　慧悟（三重大学）



テーマ５
桑野　智子（東海大学）



テーマ６
吉原　鈴（尾道市立大学）



テーマ７
兵藤　百華（東海大学）



テーマ８
大溝　心胡（名古屋学芸大学）

令和７年度 若手研究者活動支援制度 助成対象研究者決定

国際エメックスセンターは調査・研究事業の強化を図るための取り組みの一環として、令和２年度より若手研究者活動 支援制度を設置し、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者の支援をしています。６年目となる今年度は、12 件の申請があり、令和７年６月６日（金）に開催したエメックス研究員会議において厳正な選考が行われ、助成対象研究者として、昨年からの継続３名を含む６名が決定しました。

若手研究者活動支援制度 HP

	氏名	所属等	研究課題名	研究概要
	中村 隆志	東京科学大学　環境・社会理工学院 准教授	陸域―海域―生態系統合モデルを用いた宮城県志津川湾デジタルツインの開発（その３）	
	小林 英貴	富山大学 理学部 自然環境科学科 特命助教	炭素収支の解明を主とした沿岸域の炭素・栄養塩の動態把握：富山湾をモデルケースとして	
	尾崎 竜也	熊本県立大学大学院 環境共生学研究科環境共生学専攻博士後期課程 大学院生	潮汐と海底湧水を反映した干潟の基礎生産過程の解明（その２）	
	藤林 恵	九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 准教授	干潟の底生珪藻の増殖およびEPA生産に与える溶存態ケイ素の影響	
	伊佐田 智規	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所 准教授	アマモ場における透明細胞外重合物質粒子の起源と組成の解明	
	曽根 亮太	愛知県水産試験場　海上環境研究部 主任研究員	栄養塩管理によるアサリを中心とした干潟生態系の再生―メソコズムによる生態系応答の検証と機能評価―	

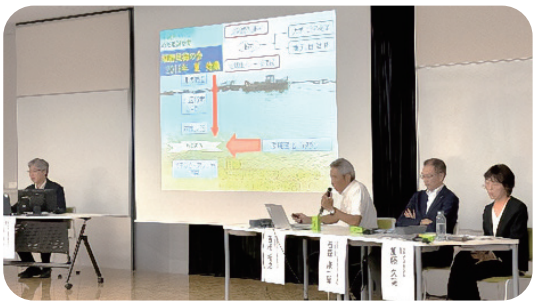
里海国際フォーラム　開催報告

大阪・関西万博の開催に合わせて設けられた、ひょうごＥＸＰＯウィーク「地球の未来と生物多様性」テーマウィークのシンクロイベント「ひょうご里山･里海国際フォーラム」（主催：兵庫県、国際エメックスセンター他）のプログラムとして、令和７年９月28日（日）に、里海国際フォーラム「今後の里海づくりに向けて　―兵庫からの発信―」を、兵庫県立兵庫津ミュージアム　ひょうごはじまり館（神戸市兵庫区）で開催しました。

同フォーラムでは、神戸大学 大学院工学研究科教授の内山雄介氏をコーディネーターとして、（一社）須磨里海の会代表理事の吉田裕之氏から神戸・須磨海岸の里海づくり、Value Frontier株式会社代表取締役の石森康一郎氏からメキシコ・カリフォルニア湾で行われている里海づくり、和歌山大学観光学部教授の加藤久美氏から地域資源を利活用した里海づくりについての事例紹介に続き、パネルディスカッションが行われました。

本フォーラムには約80名の参加者がありました。

国際エメックスセンターウェブサイトでフォーラム動画を公開していますので、是非ご覧ください。





概要【水族館発、都市圏での里海づくりの挑戦】

吉田　裕之　一般社団法人須磨里海の会　代表理事

神戸の須磨海岸では、2010年に漁師から「アサリが取れなくなった」と聞いたことをきっかけに、須磨水族園が里海活動を開始した。須磨では2009年を最後にアサリ漁ができなくなっており、その原因は埋め立てをはじめとする複数の要因が複合的に影響していると考えられている。

水族園は研究資金を獲得し、漁業者や水族園職員が連携して海底とアサリの実態調査を開始。2016年には「須磨里海の会」を結成し、市民・漁業関係者・研究者・自治体が協力して天然アサリが戻る海岸の復活を目指した。しかし、天然アサリの再生には市民活動の範囲を超えた大規模な土木工事や広範囲の水質改善が必要であるという結論に至った。

2020年に水族園の解体が決定し、活動拠点を漁協内に移転。資金力と信頼性を高めるため、2024年には一般社団法人格を取得して活動を継続している。

現在は産卵母貝の育成や稚貝の着底場所の確保のための活動の他、アマモやアカモクなどの藻場づくりにも力を入れている。藻場はブルーカーボンとして温暖化を抑制する働きがあると言われている。

また、兵庫県、神戸市、漁業者と連携してSuma豊かな海プロジェクトを創設し、Ｊクレジット制度を利用した資金獲得にも取り組んでいる。

啓発活動に最も力を入れており、小学生を対象にした里海教室を開催する等、海への関心を広げて豊かな里海を次代へ継承することを目標に活動を続けている。

概要【メキシコにおける里海づくり】

石森　康一郎　Value Frontier株式会社　代表取締役

メキシコでも気候変動や乱獲の影響により漁獲が減少傾向にあり、その結果、カリフォルニア湾ラパスの漁業者（特に零細漁業者）の生活が厳しくなってきている。そのため、地方政府・大学・NGO・漁業者らで構成するラパス里海協議会を設立し、国際協力機構（JICA）の支援をきっかけに、気候変動や乱獲で漁獲量が激減した同地域の課題解決に向け、岡山県のメーカーが製造する牡蠣・ホタテの貝殻を活用した人工漁礁を小型化し、現地の貝殻を詰めて海底に沈める方式を取り入れた。

漁礁設置からわずか１週間で大量の魚が集まり、３ヶ月後には高級商用魚も確認されるなど顕著な効果が現れた。また大学の研究者が付着卵を確認したことで、単なる魚の集積ではなく生産が行われている「ネイチャーポジティブ」な状態であることも証明された。

活動の持続性を担保するため、協議会では過剰な漁獲を防ぐルール作りも同時に推進している。現在は本取組をカリフォルニア湾沿いの約10か所に拡大しており、将来的には中南米全体への展開を目指している。

概要【地域資源を活用した里海づくり】

加藤　久美　和歌山大学　観光学部　教授

近年のオーバーツーリズム問題等を背景に、エコツーリズムの原点に立ち返り、観光客・事業者・地域が共に責任を持つ「サステナブルな観光」への転換が必要である。

観光客の意識も変化しており、地域への社会的・環境的貢献を重視する傾向が強まっている。パラオの自然を保護することを誓う「パラオ誓約」署名制度や宮島の訪問税など、地域の覚悟とコミットメントを観光客に伝える取り組みが各地で広がっている。里海づくりにはサステナブルという言葉では言い尽くせない伝統的な知識や精神文化が根付いており、それを土台として初めて観光活動を考えていくことができる。ブルーフラッグ認証などの認証制度は地域間の共通言語や連携づくりに有効なツールとして機能するだろう。「できることをポジティブに皆でやっていこう」という考え方を紹介し、観光は社会変革の力になり得るという理念のもと、地域と共に活動していくこと必要である。

概要【パネルディスカッション】

コーディネーター：内山　雄介　神戸大学 大学院工学研究科　教授

＜ディスカッション＞

須磨海岸では、漁や藻場再生など里海活動が進んでいるが、成果はまだ限定的であり、60 ヘクタールの活動エリアを超え、周辺の浜や場所とネットワークでつなげることを今後の目標としている。また、人工海岸で得た知識を自然海岸へ波及させる人材・資金・デザイン（目標設定）が必要となる。

メキシコ・ラパスで漁礁設置が成功した要因は漁師自身の切実な危機感と、自発的・主体的な取り組みである。兵庫県の里海活動は充実しているが、県民への認知度が低いことが課題だと思われる。若者を巻き込んだ提案活動の促進や、岡山県や香川県といった隣接県との広域連携が必要ではないか。

地域資源の利活用については、各地域の取り組みが一貫したストーリーになっていないことが共通課題になっている。観光は単なる集客でなく、環境保全と融合した「サステナブルな観光」へ転換が必要である。認証制度は「ロゴを得ること」が目的ではなく、地域が評価・参画できる仕組みとして活用すべきだろう。

会場の若い参加者からの「若者はデジタル疲れから『人間的な生活』への回帰志向があり、里海活動とマッチする可能性がある。『エモ消費』（背景・ストーリーへの共感）が購買につながる世代特性を活かしてはどうか」という意見も大切である。

＜総括＞

里海づくりの情報発信と認知向上が必要であり、里海とは何かを Z 世代を含む幅広い層に知ってもらうことが第一歩となるだろう。経済的循環の創出として、ESG（Environment・Social・Governance）経営を重視する企業が里海活動へ寄付･協力することで企業価値向上につながる仕組みづくりが必要である。単発･孤立した活動を超え、地域をつなぐ広域ネットワークの構築が里海づくりの未来像になる。

里海国際フォーラム

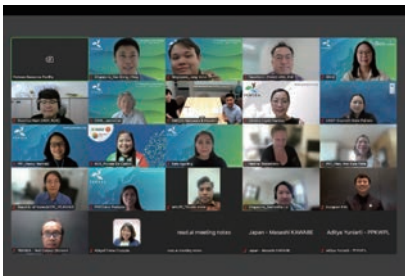
東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）年次会合　参加報告

国際エメックスセンターはフィリピンに事務局を置く東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）の非政府パートナーとなっており、令和７年７月 22 日～ 23 日にフィリピン・マニラで開催された東アジア海域（EAS）パートナーシップ年次会合にオンラインで参加しました。

当センターが参加した技術セッションでは、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）2030」の目標に対する東アジア海域の持続可能な開発戦略（SDS-SEA）イニシアチブの進捗状況と提言について検討が行われ、同地域の進展と成果を評価するとともに、より長期的な実施計画の必要性が強調されました。

また、統合的沿岸管理（ICM）の仕組みを海洋空間計画（MSP）などのツールと統合することや、ブルーエコノミーへの取り組みにおける基礎的要件としてこれらを位置づけること等について確認されました。

本セッションでは、政府パートナー（11 ヶ国）及び非政府パートナー（22 機関）から各々が取り組んでいる事業等の報告もあり、当センターからは、里海づくり事業や人材育成事業として高校生海洋環境保全研究セミナーについて報告しました。



（写真提供：PEMSEA）

PEMSEA

PEMSEA について

東アジア海域環境管理パートナーシップ（**PEMSEA**: Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）は、1994 年に国連開発計画（UNDP）が設立した東アジア及び東南アジアの海域における海洋の開発と海洋環境の保全との調和をめざした持続可能な開発の枠組みです。

事務局（**PEMSEA Resource Facility**）はフィリピン・マニラにあり、11 ヶ国の政府パートナー（カンボジア、中国、北朝鮮、インドネシア、日本、ラオス、フィリピン、韓国、シンガポール、東ティモール、ベトナム）と 22 の非政府パートナーが参画しています。

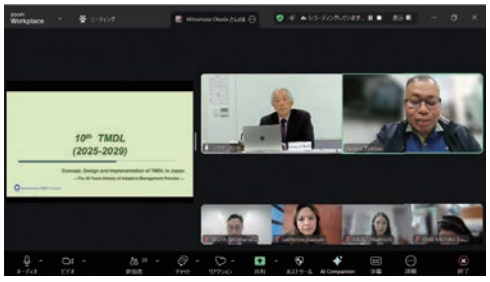
アジア水環境パートナーシップ（WEPA）　事業報告

環境省が実施しているアジア水環境パートナーシップ（WEPA）事業の一環として、WEPA パートナー国の行政官・研究者が日本の水質総量削減及び里海づくり事業について学び、情報交換を行うにあたり、WEPA 事務局である（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）から依頼を受け、令和８年１月 15 日（木）に会合を実施しました。会合では、日本及び兵庫県の水質総量削減における取組や栄養塩管理運転について、フィリピン共和国政府の行政官・研究者に向けて発信し、情報交換を行いました。

日　時：令和８年１月 15 日（木）　10：00 ～ 17：00
　　（オンライン開催）
参加者：フィリピン共和国　19 名（環境天然資源省環境管理局行政官等）
内　容：環境省：日本の水質総量削減の現状と展望
兵庫県：水質総量削減における国と地方自治体の役割、他

日本における水質汚濁管理手法の経験をフィリピンからの参加者と共有することを目的とし、WEPA アドバイザーの岡田光正氏（広島大学 名誉教授、国際エメックスセンター 理事長）から日本の水質総量削減の取組について、内山雄介氏（神戸大学 大学院工学研究科 教授）から日本の沿岸域における環境保全の歴史や環境省が行っている里海づくりの推進について、兵庫県環境部水大気課から瀬戸内海の水質環境の状況及び同県が行っている水質総量削減や栄養塩類管理計画等の取組について説明がありました。

最後に、中谷祐介氏（大阪大学 大学院工学研究科 准教授）から沿岸海域への栄養塩供給対策とノリ養殖への影響について説明があり、本会合は日本の沿岸域の水質汚濁とその対策の歴史、地方自治体の水質汚濁に対する取組等、包括的に情報を共有する場となりました。



WEPA

令和７年度 高校生海洋環境保全研究セミナー　開催報告

国際エメックスセンターでは、沿岸域またはその流域における環境に関する調査・研究、保全活動などを行っている高校生が専門家から直接助言・指導を受け、その成果を公開で発表する機会を創出することで、次世代の閉鎖性海域の環境保全を担う人材育成をより一層推進することを目的とし、令和４年度から「高校生海洋環境保全研究セミナー」（令和６年度まで「高校生海洋環境保全研究発表会」の名称で実施）を開催しています。

令和７年度は令和７年10月25日（土）に発表指導会、令和８年１月24日（土）に研究発表会をスペースアルファ三宮（神戸市中央区）で開催し、８校による全10件の研究活動が発表されました。

また、今年度から、発表指導会前にサポートを希望する高校に対し、発表指導委員５名が学校訪問による対面またはオンラインにて研究活動への助言等を行う、事前サポートを実施することになりました。

７月下旬から９月上旬にかけて希望のあった７つの研究活動にサポートを行い、各校の研究内容に近い専門分野の発表指導委員が生徒から研究活動の状況を聞き、研究方法の工夫や何を目的として研究を行うか等、助言を行いました。

非公開で実施した発表指導会では、各高校から最大５名の生徒が参加し、海洋ごみへの意識を高めるボードゲームの開発、牡蠣殻を利用したアマモ場の保全、アオリイカの資源回復、海ごみを利用したアート作品による海洋環境保全の啓発等、多岐に渡る内容の発表を行いました。各発表後は発表指導委員から研究内容や今後の研究の進め方、わかりやすいパワーポイントスライドの作成方法等について助言・指導を受けました。

終日にわたり開催された発表指導会でしたが、参加生徒は他校の発表や助言内容を熱心に聞き、最後の全体質疑では参加生徒同士の質疑応答も行われました。

研究発表会（公開）は対面とオンライン併用のハイブリッド方式により開催し、指導会で受けた助言・指導を反映してブラッシュアップされた研究内容が発表されました。

発表終了後は発表指導委員による審査が行われ、最優秀賞に学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校による発表「海のヒーロー牡蠣殻！アマモ再生の救世主となるか？」、優秀賞に鹿児島県立鹿児島水産高等学校による「イカシバで生まれた稚イカは何処へ？～アオリイカの初期減耗と資源再生に関する基礎研究～」、学校法人穴吹学園 穴吹学園高等学校による「海ゴミゼロへ　～アートを利用した女木島の環境保全～」の２発表が選ばれ、表彰が行われました。

セミナー終了後に参加高校の引率教諭の方々に回答していただいたアンケートでは、「様々な学校の発表を聞くことができて、生徒達の刺激になった」「発表方法や内容に関して具体的にアドバイスを貰えて良かった」「指導会でアドバイスを貰い、発表会で１年間の総まとめとして発表するという目標ができて頑張れた」等の感想をいただきました。

国際エメックスセンターウェブサイトで本セミナーの発表動画を公開していますので、是非ご覧ください。

高校生セミナー

令和７年度高校生海洋環境保全研究セミナー参加高校　（発表順）

学　校　名	発表タイトル	受　賞
宮城県南三陸高等学校	松原海岸の生物調査	
愛媛県立宇和島東高等学校	宇和島湾の海洋ごみに関する研究 ～ボードゲームは世界を変えられるか～	
学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校	海のヒーロー牡蠣殻！アマモ場再生の救世主となるか？	最優秀賞
兵庫県立尼崎小田高等学校	蓬川と尼崎運河に発生する浮遊ごみの発生源について	
学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校	目指せ！里海ペーパー	
鹿児島県立鹿児島水産高等学校	イカシバで生まれた稚イカは何処へ？ ～アオリイカの初期減耗と資源再生に関する基礎研究～	優秀賞
学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校	アマモ種子の長期保存	
兵庫県立姫路西高等学校	海への害がないカゼインプラスチックの開発	
学校法人穴吹学園 穴吹学園高等学校	海ゴミゼロへ　～アートを利用した女木島の環境保全～	優秀賞
神戸市立科学技術高等学校	プランクトンから見る神戸の海岸の水質	





第 20 回日仏海洋学シンポジウム　参加報告

海洋や水産に関係のある分野で活動している日本とフランスの科学者や団体が連携・協力を促進することを目的に設立された日仏海洋学会が、令和 7 年 11 月 28 日（金）～ 30 日（日）にかけて、鳥羽商船高等専門学校（三重県鳥羽市）で第 20 回日仏海洋学シンポジウム「鳥羽 2025：持続可能な未来のための海洋科学」を開催し、国際エメックスセンターは同シンポジウムのプログラム「里海セッション」への助成を行いました。

1 日目に行われたシンポジウム開会式では、基調講演 1 として、松田治氏（広島大学　名誉教授）から、里海の概念が日本だけではなく海外の国々にも広まったこと、ケーススタディとして環境省が行っている令和の里海づくりモデル事業や、松田氏が理事長を務める（特非）里海づくり研究会議が関係機関と共に取り組んでいる海洋酸性化対策プロジェクト等、日本における里海づくりの紹介がありました。

開会式後に里海セッションが開催され、冒頭に日仏海洋学会会長　小松輝久氏から開会挨拶とセッション開催の目的について説明が行われました。続いて、仏日海洋学会会長の Patrick Prouzet 氏が基調講演 2 として、「自然と文化」プロジェクトを提唱し、自然と文化の持続可能な開発に日本の「里山・里海」の概念等を取り入れて、人間と自然の共生・世代間継承を重視するエコシステム的かつ参加型のアプローチの推奨について講演されました。その後、環境省　水・大気環境局　海洋環境課　海域環境管理室長　西川絢子氏から、瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域の水質汚染対策、里海の理念に基づいた環境省の里海づくり支援事業等や抱える課題について説明があり、日本の経験は持続可能な沿岸域管理の国際的モデルになり得ると説明がありました。

基調講演後は翌日（29 日）にわたり、参加者から日本やフランス、インドネシア等で行われている里海の理念を取り入れた活動や研究について発表があり、国内外でそれぞれの地域の実情に合わせた里海づくりについて知る機会となりました。

同シンポジウムには日本、フランス、インドネシア、中国、韓国等から約 160 名が参加しました。





日仏海洋学シンポジウム

日仏海洋学会

事務局からのお知らせ

ご賛同いただけるみなさまのご協力、ご参加を心よりお待ちしています。また、みなさまのお近くの方にも是非、本会をご紹介ください。

《年会費》

団体会員	100,000 円
NGO 団体	30,000 円
個人会員	10,000 円

《特典》

❶ 当センターが主催または共催するシンポジウムセミナー等に優先的に参加することができます。
❷ 当センターが有する最新の情報の提供を受けることができます。
❸ 当センターが実施する調査研究プロジェクトの形成などに参加できます。

※入会を希望される方は、国際エメックスセンター事務局までお問い合わせください。

編集・発行及び連絡先　公益財団法人 国際エメックスセンター
651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 2 号　人と防災未来センター東館 5F
TEL：078-252-0234　FAX：078-252-0404
HP：https://www.emecs.or.jp　E-mail：secret@emecs.or.jp

エメックスセンター